

① 学年より

3学期は3つの学期の中で最も短い学期です。その3学期を1年生は、「2年生の0学期」、つまり2年生になるための準備期間であると話をしてスタートしました。初めての中学校生活はコロナ禍により、教育活動が中止、延期、制限することもありました。その中でも来週23(水)には延期していた校外学習を予定しており、現在準備を進めているところです。

生徒はこの1年で、心身ともに大きく成長したと思います。4月からは胸を張って先輩として新入生を迎え入れてほしいと思います。保護者の皆様、1年間ご協力頂きありがとうございました。

② 学年より

2年生は、この1年間でとても多くの生徒が成長したように感じます。様々な行事に積極的に取り組み、自己を成長させたように思います。特に12月の立志式では自分の今を見つめ、将来の姿を考え、ひとりひとりが「こころざし」を立てました。また、部活動では、憧れの3年生が引退した後、中心としての活動となり、様々な場面で、多くの課題と向き合い活動をしてきました。

この4月からは3年生。最上級生として浅草中の素晴らしい伝統を引き継いでいけるように、1年生、2年生とともに協力をしながら有意義な学校生活を送れるように取り組んでいきたいと思っています。

③ 学年より

1月からいよいよ受験本番が始まりました。1月には私立推薦入試、都立推薦入試、2月には私立一般入試、都立一般入試と、3年生にとって挑戦の日々が続きました。この受験という挑戦を通し、それぞれが自分の進むべき道を見つけ、ひと回り大きく成長したように思います。中学生で一番の山場をしっかりと乗り越えることができました。

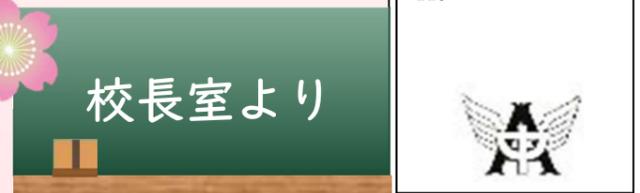
そして、いよいよ明日が卒業式です。この浅草中学校で学んだことを胸に、立派にこの浅草中学校を巣立って行ってほしいと思います。長年に渡り、本学年の教育活動にご理解、ご協力いただいた保護者の皆様、本当にありがとうございました。

整理整頓をする

校長 瀬川 眞也

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症に振り回された1年間が終わろうとしています。学校行事の中止や内容変更、部活動の制限など、生徒のみなさんは我慢の1年となってしまいましたが、それぞれの生徒が自分のやるべきこと、やれることを自ら考え、精一杯取り組み、しっかりと成長した1年だったと感じています。

さて、4月から3年生は義務教育を終え、新たなステージに立ちます。2年生は最上級生となり、1年生は学校の中核となります。そんなみなさんに、この3月の終わりに取り組んでほしいことがあります。それは「整理整頓」です。ドイツのことわざに「人生の半分は整理整頓である」というものがあります。自分の部屋、机の周りが整理されていないと、何かを取り組むのにも、資料がなかったり、場所がなかったりと時間がかかってしまいます。また、自分の考えや気持ちも整理しておかないと、不安な気持ちが大きくなってしまいかもしれません。この3月は、身の回りのものをきちんと整理し、心も整えて次のステージに向かっていきませんか。



学習発表会を行いました

3月3日(木)～5日(土)に、学習発表会を行いました。この1年間に各自が一生懸命に取り組んできた教科の課題、学年で取り組んだ調べ学習や行事の様子など、様々な展示物が並び、会場を彩りました。個性豊かな作品やレポートなどを見て、生徒たちの感動する様子が見てとれました。今年度もコロナ禍での開催となりましたが、生徒と保護者の見学日を分けて実施することで、多くの保護者の皆様に学習の成果を直接見ていただくことができました。お忙しい中、ご来校ありがとうございました。



飛翔

第169号

令和4年3月17日(木)

発行

台東区立浅草中学校

〒111-0051

台東区蔵前1-3-4

TEL 03(3866)5169

HP

<https://taito.ed.jp/sw>

[as/index.php?id=1320](https://taito.ed.jp/sw/as/index.php?id=1320)

115



3月の浅中しぐさ

人の話は
目と心と耳
で聞く

仁義礼智信

卒業を迎える三年生、おめでとうございます。一步大人になる君たちに知っておいてほしいことを記します。

昭和20年3月10日未明の東京大空襲です。東京は戦争中何回も空襲を受けましたが、この日が最大のものでした。この空襲にはいくつかの注目する点があります。軍事目標(兵器工場や基地)ではなく、台東、墨田、江東を中心に、民家の密集地帯を目標としたこと。大きな爆弾ではなく、焼夷弾と呼ばれる木造家屋を燃やすのに適した爆弾を用いたこと。周辺に枠を作るように投弾後、内部を焼き尽くすことで多くの非戦闘員の殺害を目標としたことなどです。

火薬の爆発ではなく、燃えるゼリー状のガソリンを飛び散らせる焼夷弾は、家も木もそして「人」も同じように燃やし尽くしました。火災による旋風は秒速百m以上(普通の台風で20m程度)、炎と煙の渦巻きは上空10,000mにもなりました。炎にまかれ焼死、地下壕などでの窒息死、隅田川での溺死などたった一晩で十万人の命が失われました。

鎮火後は一面の焼け野原、多くの焼死体、川面は水死体でおおわれる悲惨な状況だったそうです。隅田川の対岸、横網公園には大きな慰霊堂が、台東区や中央区にも慰霊碑があります。皆さんもそれらを見かけた際は、そんなことがあったことを思い出してほしいと思います。